

いざなぎ学園だより

2024.1/24

◆令和5年度 淡路文化会館「いざなぎ学園」第25回講座◆

令和6年1月24日(水)「いざなぎ学園」第25回講座、午前中は、専門講座8「神話とは何か?」(講師 兵庫教育大学教授 森 秀樹 氏)。午後はサークル活動B9(彫刻・カラオケ・手芸・文芸・書道・民謡・社交ダンス・パソコン中級)が行われました。



◎学園生のみなさんの感想 振り返りシートから(抜粋)

・ギリシャ神話、古事記を比較しながら、「神話が昔の人々に果たした役割」「現代人にとっての神話の意義」などを教えていただいた。現代は真実を説明する役割を科学が、昔は神話がそれを果たしていた。また生命の起源、限りある命、食物の生成、また政権の成り立ちなど、今日の私たちの考え方が神話に深く関係していることがわかり興味深かった。

・神話にはすごく興味があり、古事記の本を購入して読みましたが、神様の名前がたくさん出てきて難しかったです。今日は森先生からわかりやすく詳しく説明いただきよかったです。ありがとうございました。

・神話といえば国生み神話ぐらいしか知りませんでした。日本の神話と西洋の神話の考え方に共通することがあり、日本も世界もつながっていることを感じました。人類誕生の神秘的な講座で、神話が今の私たちのルーツにつながるような何か不思議な気持ちになりました。

・「神話とは何か？」今まで、神に関するおとぎ話のようなものと思っていました。理解できない説明のつかないことが起こった時、心のよりどころとして神話があり、その役割を果たしていた。また独裁的な主体を認めず、行為の主体や責任をあいまいにしやすい日本的な発想も神話に由来することが分かり、神話の世界は今の私たちの世界につながっていると感じた。また科学技術の進歩は別にして心の問題ではあまり人は進歩していないように思った。

・先生の細やかなわかりやすい説明で神話と絵画の関係など新鮮な気持ちでお話を聞くことができました。もう一度お話を聞きたいです。神の存在を信じる、信じないは別にして、神話の世界での神様のお話は人間社会とよく似ており、人間は神様が創った道の上を歩いているように感じました。大塚美術館にあるシスティーナ礼拝堂を見に行きたいと思いました。

・配られた資料を見てお話を聞く前からワクワクしました。絵画や映画のワンシーンがカラーで載せられていたからです。天地創造と天地開闢、西洋の神話と日本の神話の対比、共通点と相違点、今日の授業は最高でした。カオスから今日までの長い時間を想像しながら思いを巡らせ、人生の教えを感じました。また先生のお話の続きの授業を受けたいです。

・小学生の高学年のころ図書館でギリシャ神話を読み、不思議な世界に夢中になったことを思い出しました。また今日は、先生がわかりやすく説明下さり、日本と世界の神話の違いや古事記が日本人的な発想につながっていることなど、たくさんの不思議に出会いました。古事記も日本書紀も漢字だらけで私は挫折しましたが、今日の森先生の講座を拝聴して少しストーリーがわかったような気がします。また図書館に行ってみようと思います。ありがとうございました。